

## 第7期第2回 新潟市亀田地区公民館運営審議会 議事概要

日 時： 令和2年2月28日（金） 午後2時～午後3時40分

場 所： 亀田地区公民館（江南区文化会館）講座室1

出席者： 新潟市亀田地区公民館運営審議会 植木委員、遠藤委員、小見委員、斎藤委員  
坂井委員、田村委員、弦巻委員、横木委員

（五十音順）

事務局	亀田地区公民館	澤栗（館長）、捧（主任）、小林、廣木
	曾野木地区公民館	樋口（館長）、花岡
	横越地区公民館	池田（館長）

1 開会 議長あいさつ

2 議事（報告事項）

（1）令和元年度事業中間報告について

（事務局） 令和元年度事業実施結果（1月末現在）を報告

（坂井委員） 亀田地区公民館のNo.8「新潟大学教職大学院連携事業」の内容を知りたい。

（事務局） 新潟大学教職大学院から依頼を受け、教職大学院で学ぶ教職員16人に対し、社会教育についての話と、「おおぶち学びの部屋」の事例を通して連携や企画の仕方、チラシの作り方など一連の公民館事業の組み立てについて説明し、90分の講座として開催した。

（坂井委員） 亀田地区公民館のNo.9「プレママパパ講座」は共催連携で健康福祉課と開催しているが、予算の振り分けを知りたい。

（事務局） もともと2回で開催していた安産教室（健康福祉課）の3回目に公民館が入る形で開催しているが、予算は担当している分だけとなる。

（横木委員） 三館の事業数と総体的な予算を見るとかなりハードな気がする。連携、共催も増えているのかも知れないが、実際公民館職員だけでやり切れているのか。

（事務局） 公民館の職員だけでなく、活動協力員や地域のボランティアスタッフ、企画委員の方々から助けられて事業に取り組んでいる。公民館職員だけではやれない部分が多くあり、本当に感謝している。

（横木委員） 基本的にボランティアでやっているということか。

（事務局） はい。曾野木は「きもだめし大会」や「勾玉づくり」で、多くのボランティアスタッフが無償でかかわってくれた。職員だけではとてもやれない、ボランティアスタッフの力が大きいと思っている。横越はボランティアが多く助かっている。共催事業も多くコミュニティ協議会やライオンズクラブといった団体をお願いして、公民館ができない部分を補ってもらっている。

（坂井委員） 三館ともそれぞれの特色を活かした事業があつてすごくいいと思っているが、横越地区公民館の思春期家庭教育学級公開講座がなくなったのは残念だった。命の部分と育成教育、防犯といった話を親子で聞けるとするのがすごくいいと思った。

（事務局） 非常に好評な事業で30人募集のところ70人の応募があつた。70歳くらいから子どもまで千差万別な年齢の方から応募いただいた。部屋の広さから50人が限度であつたが、コロナ対策からも狭い部屋でびっしりになってしまうので中止とした。次

回またやりましょうということになっている。

(坂井委員) こういう機会でないといろんな世代が一堂に会して話を聞くことがないので、よろしくお願ひしたい。

(田村委員) 機会や時間があれば事業に参加しているが、三館とも素晴らしい活動をしていると思っているので、これからも頑張っしてほしい。一つお聞きするが、企画委員と活動協力員の違いは何か。企画委員は全くのボランティアで活動協力員はお金が出ているという話である。それぞれのところで活動協力員が何人いて、どれくらいのお金が支払われて、任期はどれくらいかお聞きしたい。

(事務局) 合併して基幹公民館と地区公民館になった時、基幹公民館に運営審議会を残し、地区公民館には運営審議会の代わりに活動協力員を置き、公民館のいろいろなことを審議してもらいましょうとなった。公民館条例施行規則では、定員が15名以内、任期が2年、再任は妨げないが連続して3期を超えてはならないとあるが、各公民館で7人くらいいて、年間1万8千円の報酬が出ている。

(田村委員) 企画委員がそれぞれの公民館にいれば、活動協力員の数がそんなに必要なのかと一つ思ったことと、活動協力員をやってみたいと思う人もいると思うが公募をしているのか。

(事務局) 公募はしていない。いろいろな方になってもらいたい趣旨もあるため、できるだけ2年での交替は考えている。ただ、辞めると次の人を探すのが大変なため、公民館のいろいろなグループの動きを見て「この人なら」と思う人に声をかけている。

(田村委員) 企画委員制度はいいと思っているが、活動協力員がどういうところで協力しているのかははっきり見えてこないため質問した。

(坂井委員) 活動協力員を知らない人も多い。人手不足であれば公募も視野に入れてはどうか。

(事務局) お願ひできる人かを判定するのが難しい面もある。

(斎藤議長) お金が出ていたりボランティアだったり、その辺りの棲み分けについては、いずれ新潟市全体で議論することになると思う。公のお金が出ているのであれば、ある程度の透明性を求められると同時にやはり資質を見極めないと公民館事業が進めにくい苦しさもある。一生懸命やろうと思っている人にうまくPRできるようにしてもらおうといいと思う。

## (2) 令和2年度事業計画(案)について

(事務局) 令和2年度新潟市公民館事業の基本方針及び令和2年度事業計画案を説明

(植木委員) 亀田地区公民館のNo.4「高齢者の学習や社会参加を支援する事業」は次年度で終了だが、令和3年度の計画は考えているか。

(事務局) 現時点では考えていない。

(田村委員) 福寿大学の予算付けを廃止するという意味ではないか。

(事務局) 記載の仕方が誤っていた。福寿大学は廃止ではなく、自主的に活動ができるため令和3年度は自立するということである。

(遠藤委員) 重点化3の「青少年の生きる力を育む事業」についてだが、各館の事業が学習室の提供や体験学習で止まっていることに歯痒い思いをしている。中学校との連携が厳しいのはわかるが、総合的な学習の時間で公民館や図書館、コミュニティ協議会と連携し、事業に取り組んでいる事例も聞く。一つの学校にとどまらず、広く、深く何かで

きることがあるのではないかという思いもあるので、総合的な学習の時間を使って、脈ありの学校から入っていただくといいのではと思う。

(事務局) 曾野木では、今年度から中学生がギター練習で公民館に足を運んでくれる実績ができた。亀田では、夏休みの音楽室開放は、楽器をここまで運べないためか利用者は少ないが、No.2「子ども夏まつり」で、6人の中学生ボランティアが参加してくれた。令和2年度も「子ども夏まつり」、「コミュニティ・コーディネーター育成講座」でボランティアをお願いする予定である。横越では、地下道清掃で50～60人、夏休みの「がつつり塾」で毎回10人以上の中学生がボランティアで参加している。横越の中学生は結構公民館に来てくれている。

(田村委員) これからも中学生を大事にしていく必要がある。家庭教育学級については、大江山公民館で参加者は多くなかったが、不登校についての本当にいい講座を設けていただき感謝している。

(小見委員) 私は常々、これからの子どもたちを育てあげる原点は家庭教育だと思っている。小学生、中学生の親自身が子育てに重要な役割を担っている自覚を持ってもらうような親自体の教育も非常に重要と考えている。PTAとしても取り組んでいるところだが、子育て世代の親に対する教育の場を提供していただくのが大事かなと思っている。

(事務局) 亀田では、No.9「家庭教育講演会」で、児童期、思春期といった定めなく、そこにある課題、ニーズをテーマにした、聞きたい講座を届ける出前講座に取り組んでいる。

(弦巻委員) 私は曾野木地区で「子どもきもだめし大会」のボランティアに参加したが、小学生の時きもだめしに参加した中学生約20人がボランティアで参加してくれた。次回も参加したいと話していたが、公民館と中学生のつながりができてよかった。フリースペースでも中学生が大勢学習していて、公民館といい接点があると思っている。

(斎藤議長) 幼少期から青年期、そして男塾、男女、それから高齢者まで。すべてを網羅でき、支援できる包括的なワンストップステーションは、とりあえず公民館である。社会教育全体としてシームレスに見て包括的にやっていけるということが、今後大きな意味を持っていくのだらうと思う。幼少期から特に中学生、思春期と移行していく中での保護者支援をどうしていくか、学校との連携、社会教育として公民館の中でうまくできるよというのが皆さんの意見だった。

就学前健診のときの出前は公民館事業になるのか。

(事務局) 中央公民館が担当し、なくなりつつある。以前はその場に公民館職員が出向き公民館のPRをさせてもらっていたが、徐々に手を引かせてもらっている。出席しても公民館の説明をしなくていいということになったので、公民館側も出てもしょうがないとなった。

(斎藤議長) 以前は公民館の事業説明をして、「家庭教育からよろしくお願いしますね」、「本をみてくださいね」ということをお願いしたのだが。

(事務局) しかし、ゆりかご学級に関しては、昔と違い、企業の育児休業制度の充実に伴い、出やすくなったということで、参加者がずっと増えている。その後、二人目ができて幼児期家庭教育学級を受けることができたりしている。以前は専業主婦の人しか参加できない事業だったが、育児休業制度のおかげでゆりかご学級は参加しやすい事業の一つとなってきている。来年で46年目となる。

(斎藤議長) 英断をもって続けていっていただけたらと思う。

**【配布資料】**

- ・資料 1－1～3 令和元年度事業中間報告（亀田・曾野木・横越）
- ・資料 2－1～3 令和2年度事業計画（案）（亀田・曾野木・横越）